

米政策の見直しとなる30年産に向けて 北海道米の安定生産に取り組みましょう!

高まる！北海道米への評価と期待

●高い品質

北海道米は、「ゆめぴりか」「ななつぼし」「ふっくりんこ」が食味ランキングで特Aを獲得する等、道内外において、その品質について高い評価を受けております。

「ゆめぴりか」、「ななつぼし」は6年連続、「ふっくりんこ」は2年連続特Aを獲得! ▶



●日本の食料基地北海道の安定的な供給力

北海道米は作付面積も収穫量についても、毎年全国一、二を競っており、日本の食料基地北海道として、その供給力には強い信頼をいただいております。

主食用米作付面積・収穫量上位県

28年産	1位	2位	3位
作付面積 (ha)	新潟県 101,500	北海道 99,000	秋田県 69,300
収穫量 (t)	新潟県 589,700	北海道 545,500	秋田県 409,600

資料：農林水産省

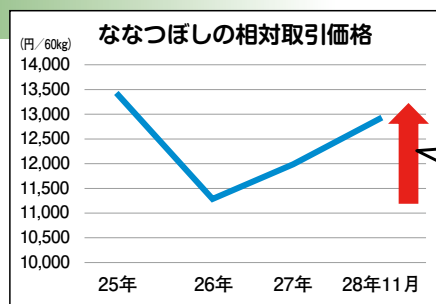
●新たな局面における更なる発展

国による生産数量目標の配分が廃止となる30年産以降においては、北海道米へ高い需要に応えるため、需要に応じて北海道米の生産拡大を図っていきます。

都道府県別需要実績

28年産	1位	2位	3位
需要実績 (t)	北海道 572,642	新潟県 538,143	秋田県 470,654

資料：農林水産省



資料：農林水産省

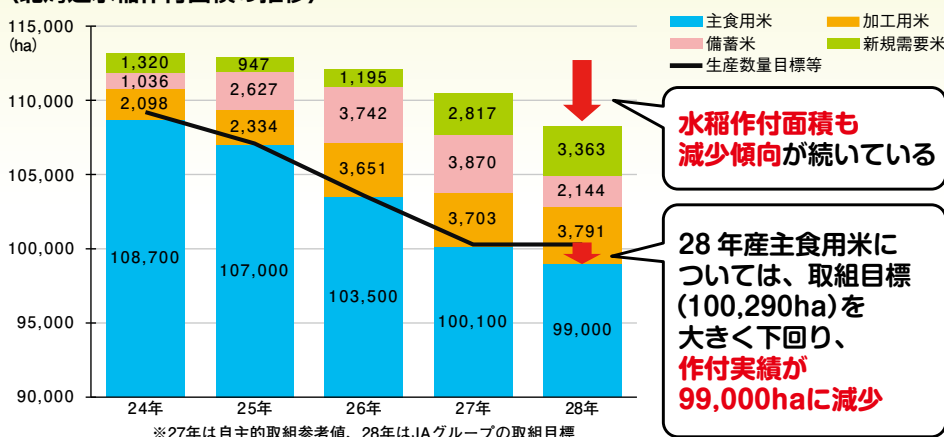
全国的な需給改善への
取り組みにより、
米価は上昇傾向!

しかし、

水稲作付面積の減少により
北海道米の安定供給へ不安が...

そうなのか!

〈北海道水稲作付面積の推移〉



水稲作付面積も
減少傾向が続いている

28年産主食用米については、取組目標(100,290ha)を大きく下回り、作付実績が99,000haに減少

これ以上水稲作付面積が減少すると...

- 道内の8割以上の人々に食べていただいている北海道米の道内供給への不安
 - CM展開などによりこれまで獲得してきた道外需要の他県産米への置き換わり
- …が懸念されます

そのため、29年産に向けては… **北海道米の安定生産が必要です!**

- ①30年産に向けた北海道米の需要を確実に確保していく観点から、**28年産主食用米作付実績(99,000ha)の確実な確保**が必要です。
⇒具体的には、29年産の生産数量目標の達成を目指します。
- ②水田機能の維持と北海道米総体の需要を確保する観点から、非主食用米の生産による**水稲作付面積の維持・確保**が必要です。

30年産以降の米生産ってどうなっていくの？

- ◆30年産からは、国による生産数量目標の配分が廃止となります。このため、各都道府県・市町村行政、生産者団体、現場が一体となって需要に応じた生産に取り組む必要があります。
- ◆北海道では、30年産以降も需要に応じた米生産を行い、農家所得の向上と北海道米の安定供給に向けて、オール北海道で取り組むことを決定しました。

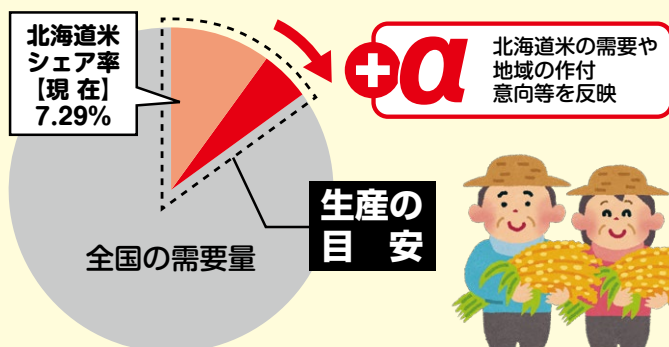
● 基本的な考え方(Q&A) ●



Q1 生産数量目標の配分が無くなるけどどうなるの？

A. 北海道独自の『生産の目安』を設定します！

北海道米の需要量に地域の作付意向等を加味し、全道段階及び地域段階での「生産の目安」の設定を検討します。



CHECK!! 目安は『水稻全体の面積』を！

北海道米の販売戦略や水田農業の振興に向け、**主食用米に限らず**新規需要米等を含めた**水稻全体**について、作付面積の目安を提示することを検討します。



Q2 どこが主体となって目安の設定、配分を行うの？

A. 『オール北海道』で行います！

北海道農業再生協議会が全道段階及び地域段階の「生産の目安」を設定し、配分を行います。また、「オール北海道」で取り組むために、農業再生協議会が主体となって「生産の目安」の推進を行っていきます。



CHECK!! 農業再生協議会とは

行政、農協、担い手農家、各種団体によって構成される組織です。各種政策や米の需給調整の推進を行っています。※道及び地域段階に設置。



- ◆北海道では30年産以降もこれまでどおり、需要に応じた生産を行っていきます。
- ◆「**日本一の米どころ**」さらには北海道米の需要拡大を目指して、主食用から加工用、新規需要米等を含め「**オール北海道**」で米生産を行いましょう！